

雇用者の通勤時間 — 平成30年の通勤時間の中央値は32.2分で全国より4.1分長い



平成30年の本市に居住する雇用者の通勤時間（注1）の中央値（注2）は32.2分と全国（28.1分）より4.1分長くなっています。21大都市で比較すると、最も長い都市は横浜市（52.3分）で最も短い都市は静岡市（23.4分）となっており、本市は長い方から数えて10番目とほぼ真ん中に位置しています。

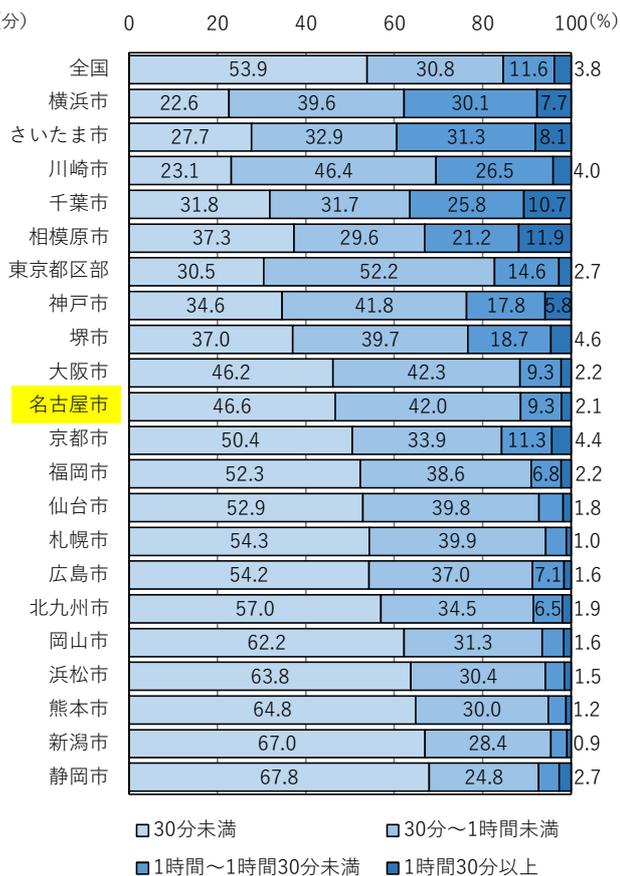
通勤時間別の割合をみると、本市で最も多いのは「30分未満」で、全体の46.6%を占めており、次いで「30分～1時間未満」が42.0%を占めています。全国と比較すると、「30分未満」は全国より低く、「30分～1時間未満」は全国より高くなっています。

地域別にみると、東京都区部や大阪市の周辺に位置する都市では「1時間30分以上」が高くなっており、東京都区部や大阪市へ通勤している人が多いことがうかがえます。一方、静岡市、新潟市、熊本市、浜松市、岡山市では「30分未満」が60%以上と他都市に比べて高く、職住近接の状況となっています。

全国及び21大都市別雇用者の通勤時間中央値（平成30年）



全国及び21大都市別雇用者の通勤時間別割合（平成30年）



(注1) 家計を主に支える者が雇用者である普通世帯における家計を主に支える者の通勤時間である。
 (注2) 中央値とは、数値を大きさの順番に並べたときちょうど真ん中にくるデータの値。偶数の場合は真ん中の2つのデータの平均値で示される。
 (注3) 通勤時間別の割合は不詳を除いて算出している。また、「30分未満」には自宅・住み込みを含む。

資料：総務省「平成30年住宅・土地統計調査」

令和2年3月掲載